

toVO トグミ  
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2



NO. 017  
20130811

あおむぎの100家族、わたしたちのこれから。





www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 工藤 幸太さん・みちるさん・剛夕くん・岳空くん  
こうせき がく

撮影場所 ▶ 弘前市城東公園 (弘前市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか? ▶ 幸太さん  
 「高校の教員をしていますが、ちょうどテスト週間です。生徒たちはいませんでした。地震があつて、帰宅という指示があり、すぐに帰りました。」 みちるさん「私は子どもを迎えに行つて、幼稚園に着いた時に地震がありました。すぐにアパートに戻ったのですが、まだ揺れていて、危ないと思い、車に乗ってラジオを聞きながら、主人の帰りを待っていました。すぐに主人が帰ってきたので、3人で広いパチンコ屋の駐車場でラジオを聞いていました。私の実家は宮城県東松島市なんです。私自身、宮城県北部地震(1990年)を体験していて、その時は本当に酷くて、今回はそれ以上の震度だと聞いて、きっと実家が酷いことになっていると心配で心配で…」 剛夕くん「電気が点かなくなって…、うーん、憶えてない…。ママのお姉ちゃんから貰ったハワイ土産のココナツのロウソクが役にたった。テレビが観れないのが嫌だった。」

●その日の夜はどう過ごしましたか? ▶ みちるさん「そのロウソクを点けて、コタツの中がまだ暖かったので、子どもを潜らせてました。ガスは使えたので、熱い食べようって、うどんを煮て食べましたね。ラジオがなかったんで、1~2時間に1度、車でカーラジオを聞きながら、携帯電話の充電をしていました。こんな日に限って全く寝れなくて、話をする事もないし、3人でシーンと過ごしてました(笑)」 ●東松島市のみちるさんのご実家とは連絡がとれたんですか?

▶ みちるさん「実家の母以外は、無事で家にいることは分かったのですが、海の近くに仕事に出かけていた母と連絡がとれませんでした。県外の親戚や仲間たちと協力しながら、TV等の災害伝言板や、mixi等を使いながら探しました。で、mixiに、泥まみれに

なつて乗り捨てられた母の車の写真を見つけたんです。母は、車に乗っている時に津波に流されたらしく、そこから泳いで近くの避難所に避難していました。避難所で知り合った男性が、車で実家へ送ってきてくれたんです。母から電話をもらったのが、2日後、13日の夕方。その時は、『お母さん、生きて良かったね!』って、大泣きしてしまいました。」 ●その後、東松島市に行つたんですね? ▶ みちるさん「親戚がみんな海に近い場所に住んでいて、自分たちの家に住めない状態だったので、私の実家に20人程が身を寄せていました。車もなく、食べ物もなくて困っていると聞いて、主人が行こうって言ってくれました。主人の父母が物資を準備してくれて、車2台で実家へ向いました。主人と2人で水を汲みに行ったり等手伝いをしました。」 幸太さん「1週間後くらい、東北自動車道が開通した直後のことです。戦争を体験したことはないですが、戦争の後ってこうなのかなと思つました。震災以前に何度も行つてますけど、全く違った町でした。」 ●震災後、何か変わりましたか? ▶ 幸太さん「特にないですね。」 みちるさん「2人で話し合つてというのはないですね。保存用のクッキーや水は常備するようになりました。たまに食べちゃったりするんですけど(笑)。気持ちの上では、世の中、何が起るか分からないって思えば、家族の中で、今まで恥ずかしくて言えなかったことや、恥ずかしくて出来なかったことが、震災を機にできるようになったと思つています。」 ●10年後は? ▶ 幸太さん「大きな病気をしないで家族全員が元気でいらしたいですね。」 みちるさん「剛夕には自分の好きなものを見つけて欲しいなと思つています。」 剛夕くん「普通の高校生(笑)。料理を作る人になりたいな。」 終

**定期購読のお申し込み** 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com) にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011/12号セット)は、1,500円で販売中です。

**編集後記** みちるさんのご実家が宮城県東松島市とは知らずにインタビューをお願いしていました。僕も震災直後に東松島市にボランティアに行っていましたので、震災後の町の様子がリアルに感じられ、いろいろ思い出しながらお話を伺いました。tovo plusは、今号でパイロット版No.000を含め18号目、残り82号、82ヶ月。忘れないうちに何だろう?を時間の経過と共に考えていきたいと思つています。【小山田 和正】

東日本大地震・津波復興チャリティ



2011年6月~2013年6月25日まで

¥1,652,865

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶工藤 幸太さん・みちるさん・剛タくん・岳空くん

撮影場所▶弘前市 城東公園（弘前市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶幸太さん「高校の教員をしています。ちょうどテスト週間で生徒たちはいませんでした。地震があって、帰宅という指示があり、すぐに帰りました。」

▶みちるさん「私は子どもを迎えに行って、幼稚園に着いた時に地震がありました。すぐにアパートに戻ったのですが、まだ揺れていて、危ないと思い、車に乗ってラジオを聞きながら、主人の帰りを待っていました。すぐに主人が帰ってきたので、3人で広いパチンコ屋の駐車場でラジオを聞いていました。私の実家は宮城県東松島市なんです。私自身、宮城県北部地震(1990年)を体験していて、その時は本当に酷くて、今回はそれ以上の震度だと聞いて、きっと実家が酷いことになっているなど心配で心配で...。」

▶剛タくん「電気が点かなくなって...、うーん、憶えてない...。ママのお姉ちゃんから貰ったハワイ土産のココナツの口ウソクが役にたった。テレビが観れないのが嫌だった。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶みちるさん「その口ウソクを点けて、コタツの中がまだ暖かかったので、子どもを潜らせてました。ガスは使えたので、熱い食べようって、うどんを煮て食べましたね。ラジオがなかったので、1~2時間に1度、車でカーラジオを聞きながら、携帯電話の充電をしていました。こんな日に限って全く寝れなくて、話をする事もないし、3人でシーンと過ごしてました(笑)」

●東松島市のみちるさんのご実家とは連絡がとれたんですか？

▶みちるさん「実家の母以外は、無事で家にいることは分かったのですが、海の近くに仕事に出かけていた母と連絡がとれませんでした。県外の親戚や仲間たちと協力しながら、TV等の災害伝言板や、mixi等を使いながら探しました。で、mixiに、泥まみれになって乗り捨てられた母の車の写真を見つけたんです。母は、車に乗っている時に津波に流されたらしく、そこから泳いで近くの避難所に避難していました。避難所で知り合った男性が、車で実家へ送ってきてくれたんです。母から電話をもらったのが、2日後、13日の夕方。その時は、『お母さん、生きてて良かったね!』って、大泣きしてしまいました。」

●その後、東松島市に行ったんですか？

▶みちるさん「親戚がみんな海に近い場所に住んでいて、自分たちの家に住めない状態だったので、私の実家に20人程が身を寄せていました。車もなく、食べ物もなくて困っていると聞いて、主

人が行こうって言うてくれました。主人の父母が物資を準備してくれて、車2台で実家へ向いました。主人と2人で水を汲みに行ったり等手伝いをしました。」

▶幸太さん「1週間後くらい、東北自動車道が開通した直後のことです。戦争を体験したことはないですが、戦争の後ってこうなのかなと思いました。震災以前に何度も行ってますけど、全く違った町でした。」

●震災後、何か変わりました？

▶幸太さん「特にはないですね。」

▶みちるさん「2人で話し合っというのではないですね。保存用のクッキーや水は常備するようになりました。たまに食べちゃったりするんですけど(笑)。気持ちの上では、世の中、何が起こるか分からないって思えば、家族の中で、今まで恥ずかしくて言えなかったことや、恥ずかしくて出来なかったことが、震災を機にできるようになったと思います。」

●10年後は？

▶幸太さん「大きな病気をしないで家族全員が元気でいれたらイイですね。」

▶みちるさん「剛夕には自分の好きなものを見つけて欲しいなと思います。」

▶剛夕くん「普通の高校生(笑)。料理を作る人になりたいな。」

【編集後記】みちるさんのご実家が、宮城県東松島市とは知らずにインタビューをお願いしていました。僕も震災直後に東松島市にボランティアに行っていましたので、震災後の町の様子がとてもリアルに感じられ、僕自身いろいろ思い出しながらお話を伺いました。市街地の65%が浸水、1,000人以上の方が亡くなり、いまだに行方の分からない方もいる東松島市。まだまだ終わってなんかいない。【小山田 和正】

【寄付総額】2011年6月～2013年6月25日まで、『¥1,652,865』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。